



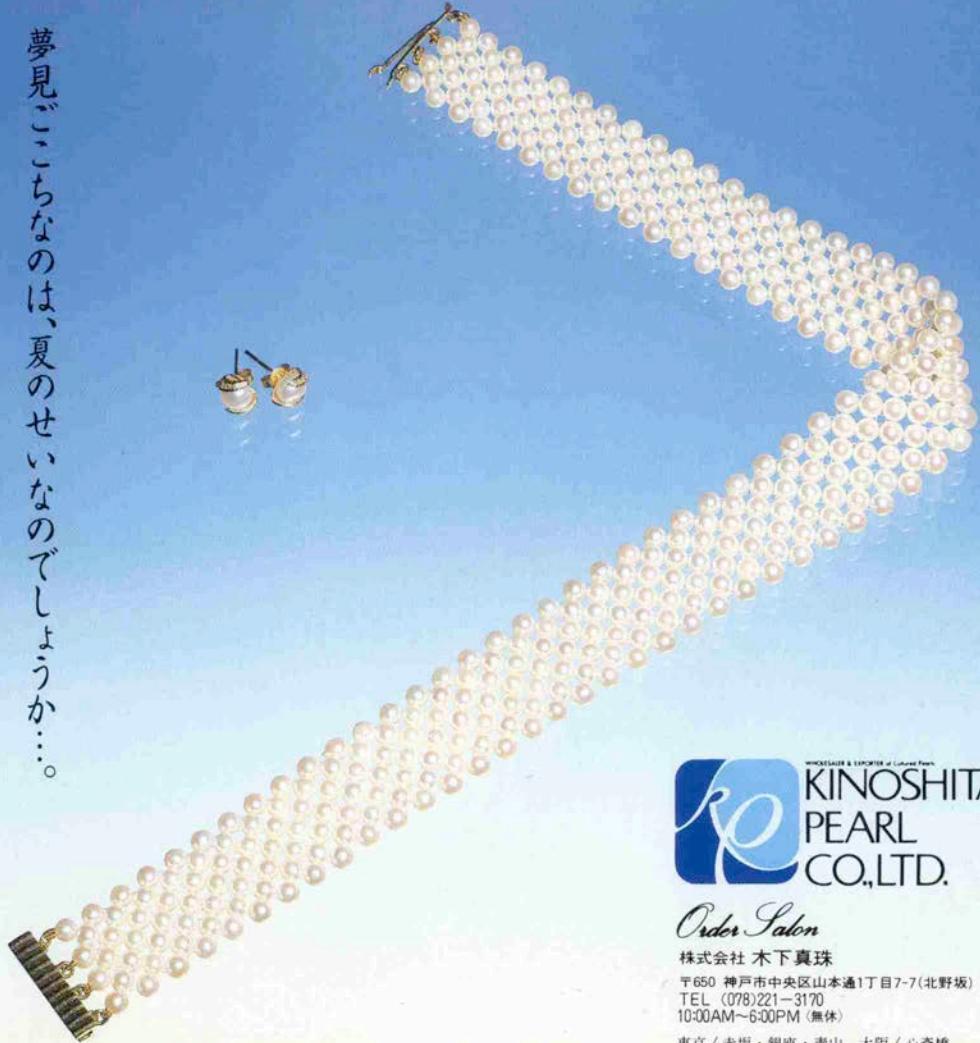
KOBE MONOGATARI

緒方しげを NO. 20

神戸の物語



夢見ごこちなのは、夏のせいなのでしょうか…。



MANUFACTURERS & IMPORTERS OF CULTURED PEARLS
KINOSHITA PEARL CO., LTD.

Order Salon

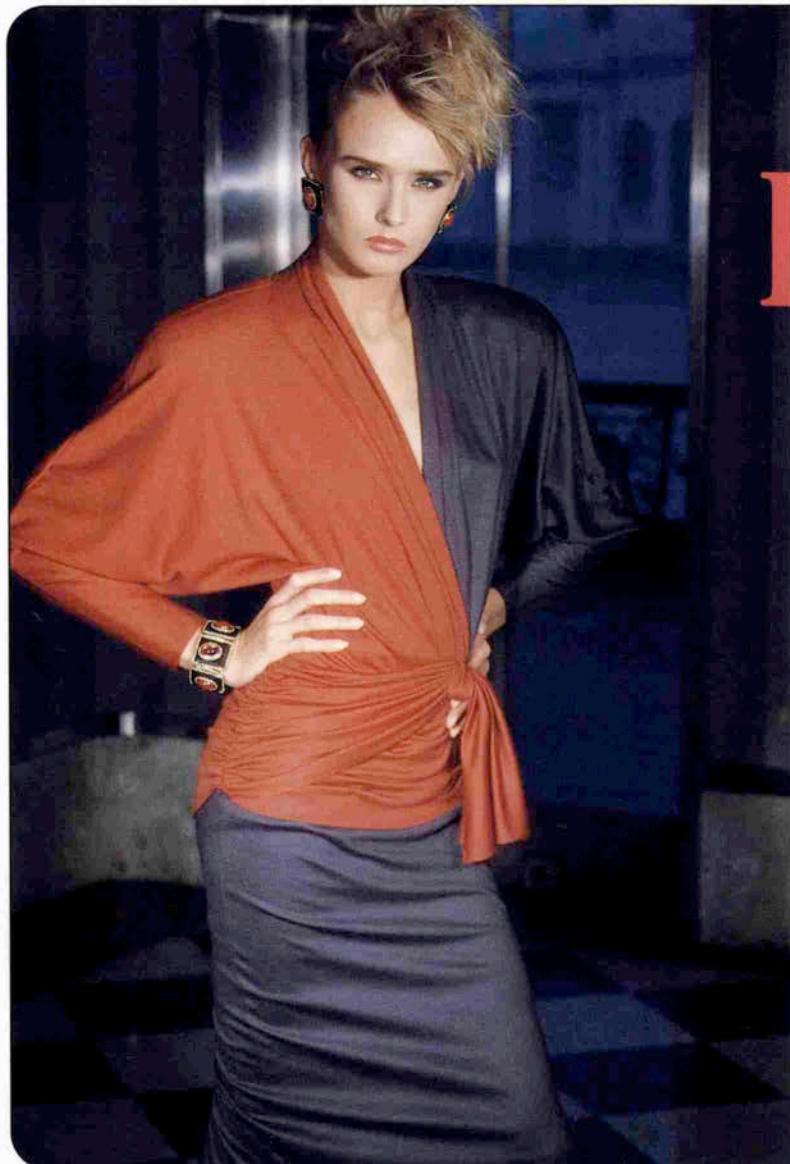
株式会社 木下真珠

〒650 神戸市中央区山本通1丁目7-7(北野坂)

TEL (078)221-3170

10:00AM~6:00PM (無休)

東京 / 赤坂・銀座・青山 大阪 / 心斎橋



FALL & WINTER WINDSOR COLLECTION

この秋のパリ、ミラノ
Newコレクションを
おとどけします。

とき 9月4・5・6日
ところ さんプラザ2F
ブティックウインザー



クチュール&ブティック

ウインザー

山田 審紗子

〒650 神戸市中央区三宮町1丁目
さんプラザ2F TEL (078) 331-7952

美しい 和菓子の樂園です。

地1階特選和菓子ブティック

咲く花々の花びらを一枚づつ包みました。
優雅な甘さをゆうりと味わって。
●無汚庵／千花片片(2種入り) 4,000円



まるで和菓子の宝石、といえそつな
一粒の輝き。岡山産のマスカットを
求肥で包んだ、自然のおいしさです。

●源吉兆庵／陸乃宝珠(6箱入り)
22,600円



DAIMARU KOBE
電話(078)331-8121



琥珀羹のいちじくと桃、水煉羹
の3つの冷菓。その彩り、その味
わいは、夏にひときわさわやか。
●源吉兆庵／水ようかん
1,000円(10個入り)

新しいのに、懐かしい。

ANNIVERSARY
270
創業270年



このまろやかな風味と、さうくり
とした歯ざわり。煉羊羹の元祖
ならではの秘伝の味わいでです。
●総本家駿河屋／極上煉羊羹
(20本入り) 20,000円



海の見える白いチャペルで“ウェディング”

御結婚披露宴・

各種パーティー

好評予約受付中



海を見ながら、神戸ならではのファッショナブルなブライダルは、恋人たちの夢。
白亜のチャペルに続くホールでのご披露宴や、劇場を利用した世界で初めての
シアターウェディングなど、感動的シーンの演出を心がけています。

カリヨンの音色に祝福されて、慶びもいよいよクライマックスに――。

ゴーフル ポートピア88

神戸 風月堂 港島

〒650 神戸市中央区港島中町7-2-2 ☎(078)302-5555

本社／〒650 神戸市中央区元町通3丁目3番10号 ☎(078)321-5555

ゴーフル ポートピア88
ポートライナー中埠頭駅前
(ゴーフル白いチャペル前)



これは神戸を愛する人々の雑誌です
あなたのくらしに楽しい夢をおくる
神戸を訪れる人にはやさしい道しるべ
これは神戸つ子の心の手帖です

8月号 目次 ● 1987・No.315

表紙／小磯良平

セカンドカバー／中西勝

コウベスナップ／神戸水族園オープン

ある集い／①劇団蝶蝶館 ②ALADIN KOBE

神戸のお嬢さん／①吉田晃子 ②松谷友恵

美の小箱／⑧田鶴悦子 文・乾由明

神戸の物語／カメラ・緒方しげを

29 わたしの意見／山田六郎

31 隨想／菅井英一・山川学三郎・野中春水

34 エッセイ／野口武彦・カット／田中一好

36 エッセイ／河上民雄・カット／石坂春生

38 水族園見である記／赤松玉女

42 地域文化論／重村 力

43 〈特集 第11回井植文化賞発表

52 泡沫飲みながら／大林宣彦

54 宝塚対談／植田伸爾＆朝香じゅん＆日向薫

58 神戸オペラ座談会

62 北野ミュージカル座談会

66 経済ボケツトジャーナル

65 キヤンベーン座談会

76 話題のひろば／①神戸七福神奉納会発足 ②センター街

74 KOBELFアッショニズムスポーツ

76 ファッションウオッチング／新谷佳冬

もうさんの HYOGO WALK ⑤／城崎・麦わら細工

76 コーヒーブレイク

動物園飼育日記／亀井一成

76 小山乃里子の華麗なる男のインタビュー／若柳吉全吾

UCCコーヒー博物館

76 神戸の集いから

76 神戸を福祉の町に／橋本明

76 有馬歳時記

76 出会いの旅／「居眠りのできないアメリカ人」福岡良樹

76 ブロフェッサーPの研究室／岡田淳

76 KOBE MODERN CULTURE

76 シネマ試写室／淀川長治

76 神戸百店会だより

76 びつといん

76 ボケツトジャーナル

76 海船港／日漫直貿易一番船／海市悠太郎

76 カメラ／米田定蔵・池田年夫・松原幸也

ビデオアート／山口勝弘

Aug.





エキゾチズムが漂う
「ニュートーキョー」元町店が
今、甦る—。
レトロにしてモダン
エキセントリックなロマンとの
出会いの始まり。

鳳見鶏がみた夢物語は
何だろう。



8月3日(月) OPEN!

オープン記念
お楽しみWプレゼント

その1 開店より5日間、毎日先着500名様に、
しゃれた飾り絵皿を進呈。

その2 開店より5日間、午後4時以後より
スピードくじサービス(オリジナルテレホンカード等、
すてきな景品がいっぱいです。)

神戸元町[1-ト-#]-

TEL 078(391)4511(大代)

1F ビヤホール「WELL」

「樽から生まれたてのビールは、最高ダゼ！」
「自慢のチヌーロースター料理も最高ネ！」
笑顔と会話がいっぱい。さあ、仲間が揃つたら
“カンパイ”しようぜ——。
・営業時間(平日)11:30a.m.~ 2:00p.m.
4:00p.m.~11:00p.m.

2F 居酒屋「さがみ」

「それたての魚って、
舌にとろけるみたいでおいしい。」
「熱爛片手に、旬の日本の味って、
やっぱりうまい。」
明石港直送の海の幸や、野や山の幸、
旬の串やきを民芸調の雰囲気の中で
存分に。(個室もご用意しています。)
・営業時間(平日)4:00p.m.~11:00p.m.

3F パーティルーム

・洋室15~50名様用
和やかな各種ご宴会、ご会合
などにお気軽にご利用くだ



感性のステージ ファッションパーク。

新宿・高野
BONFUKAYA
ゲルラン
ココ山岡
VICKY
LEE SOPHY
ELLE
ブライダルサロン・ルーブル
ダイアナ
サイズショップ・ダイアナ
OFU
CLAUDE LEMA
ZAZIE
三愛
神戸・三宮さんプラザ センタープラザ3F

FASHION PARK

営業時間 am11:00～pm8:00
PHONE 078-332-1698

8月1日に元町へ移転オープン!!

ヤマハ神戸店の3・4Fに新しく新しく生まれ変わります。



feelin'
YAMAHA

お客様各位

平素は格別のお引き立てにあずかり有難うございます。さて、私共ヤマハ家具神戸ショップは、今年で開業12年目を迎え、この8月1日より、元町商店街『ヤマハ神戸店』へ移転進出させていただきました。

本年は国際居住年に当り、現在の居住空間が見直されています。

私共の新展示場は、3階はシステム・ファニチャーを中心としたプライダル向けフロア。4階をシステムキッチン“エビキュール”を始めとする、少し贅沢なご新築・増改築向けのフロアーとさせて頂きました。全国初の音楽からインテリアまでを取り揃えたヤマハ神戸店は、ファッショントインテリアに関して、非常に高い水準の感覚を持つ神戸の皆様に、役に立つ情報を提供出来る店になったと自負しております。ぜひ一度、ご来店賜われば幸いに存じます。

日本楽器製造株式会社
ゆたか
神戸ショップショッピングセンター長 内芝有喬



- 6F ヤマハホール
- 5F ポビュラー音楽教室
- 4F システム・キッチン
- 3F システム・ファニチャー
- 2F ピアノ・エレクトーン
- 1F レコード・楽譜
- BF 音響・楽器

ヤマハ家具神戸ショップ[®]

〒650 神戸市中央区元町2丁目7-3 電話 078(333)8891

営業時間／午前10:30～午後7:00(日曜のみ6:30)

定休日／毎月第3水曜日

☆私の意見

ソフトな面でも

世界的な

センター街に

山田 六郎

△三ノ宮センター街商店街連合会会長▽



14年間、会長を勤めていらっしゃった岸野利男会長さんに代って、三ノ宮センター街商店街連合会会長になつたわけですが、岸野さんの期間中、アーケード等の近代化が行われ、ハードな面での整備は、一応、終了したと言えます。この度、私がバトンタッチを受け新会長になりましたので、今後は、ハード面からソフト面に重点を移して、三ノ宮センター街の向上に努めたいと思つています。

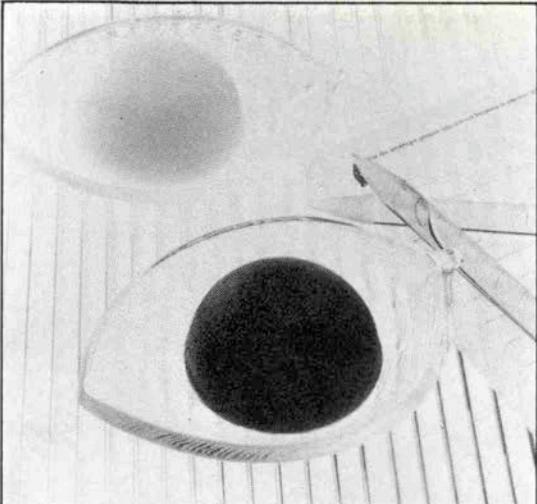
それはすなはち、どのようにして消費者の皆さんに愛されるセンター街を作るか、心と心が交う商店街にするかということになります。今は、非常に円高不況で成長時代になつておりますが、消費者の皆さんも、なかなかそう簡単には動いてくれませんので、センター街に行つたら、本当に楽しい、買いたいとか、買物をするなら、ぜひセンター街に行きたい、というような気持ちになつてもらえるような商店街づくりをしなくてはならないと思つています。

昨年、センター街とN・Y5番街とは提携しました。

N・Y5番街と言えば、世界一の商店街ですので、大きなPRになつたと言えます。しかし、いささか遠いので、小さなことでも一緒にやるのが難かしい事も事実です。そこで、N・Y5番街が現在世界の7つの国と提携している事実を踏まえて、センター街が独自に何か催しをした場合でも、写真を送つたならば、それらの国に、N・Y5番街を経由して、アピールすることが出来るのではないか。また、神戸市にも協力してもらい、アジアの近辺の都市とも、もっと仲良くなつてもらつて、それを利用して、世界にセンター街をアピールするとともに、世界平和の一翼をになえたらと思つたりもしています。

また、交通センタービルの南側からセンター街にかけて、神戸の玄関口と言おうか、センター街の顔に当る部分が、まだ未整備で残つておりますので、これから長い年月をかけて、神戸の玄関口にふさわしい街づくりを進めていきたいと考えております。

(談)



香り豊かなソルベサンク

アブリコット、ラズベリー、
ポワール(洋梨)、ブルーベリー、
パッションフルーツ、
フリーザーでつくるシャーベット感覚のデザート。
5種類の熟成した香り高いフルーツの
味わいがそろっています。



ユーハイム

こんにちは赤ちゃん



大仲貴久くん / 神戸市東灘区
ボク、タカくん 9ヶ月です
なぜか今日はカメラを前に緊張気味！
完全看護★冷暖房完備★病院前公共駐車場有

芦屋 柿沼産婦人科



芦屋市大耕町1番18号
芦屋保健所東隣
☎ 芦屋 (0797) 31-1234 代表

この石組（敢て石垣と言わず）は、父百太郎が昭和十三年に現在地に家を建てた時、作ったものです。

父は茶道に親しんでいた母のためにも家の裏に茶室、茶庭を作りました。そういった意味から設計を堀口捨己氏（桂離宮の研究家として著名、当時四十三歳）に依頼しました。

父は茶道に親しんでいた母のためにも家の裏に茶室、茶庭を作りました。そういった意味から設計を堀口捨己氏（桂離宮の研究家として著名、当時四十三歳）に依頼しました。

た。

さて、この石組は入口の三方に作ったもので、鞍馬石を積み上げてあります。現在では不可能と思いますが、毎日京都から石工が五人ほど通い、堀口氏の指導で設計図に合せて積み上げていました。特に氏が強調されたのは、積んだ石の面が平らでないこと。隙

は不可能だと思いますが、毎日京都から石工が五人ほど通い、堀口氏の指導で設計図に合せて積み上げていました。特に氏が強調されたのは、積んだ石の面が平らでないこと。隙

は不可能だと思いますが、毎日京都から石工が五人ほど通い、堀口氏の指導で設計図に合せて積み上げていました。特に氏が強調されたのは、積んだ石の面が平らでないこと。隙

せんが、父が亡くなるまで自慢にしていたものです。

なお、当時、神戸高等工業学校（現神戸大学工学部建築科）の学生さんが先生に連れられて数年間見学に来て下さったことも覚えております。

追加のようになりますが、堀口捨己氏は前述のように桂離宮の研究をされていた人で



隨想三題

石組

山川 学三郎

(関西学院高等部講師)
(食虫植物研究会会員)

間にクサビ石を入れること。セメントを表面に出さぬことでした。規格通りの石を用いないので、鉄のクサビ形のノミを三、四カ所に入れて石を割る作業には手間がかかったことでしょう。

はあの石を降して、足元にあつた石と替えてくれと注文を出されました。石工の一人が急に怒り出して「馬鹿にするな」とどなり、氏にくつてかかったところ「済まん。頼むからこれだけはやつてくれ」と頼みました。積み終えた石組を見て石工は「申し訳ない。悪いことを言った」とそ

最近、その石組を二メートルばかり延長したのですが、これは植木屋が積みたしたもので、その味の無さは申すに及ばず、そのためか、一層堀口氏の作品の素晴らしい感動している次第です。

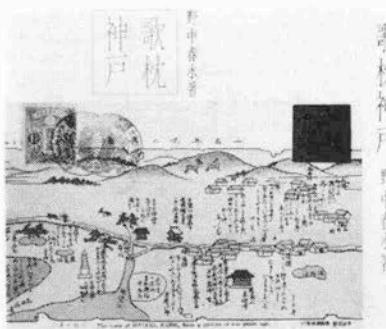
完成も近いある夕方、やつと最上部の石を積み上げた時（当時は手動の起重機）、氏

■自宅・西宮市雲井町一一三

昭和二十年六月に戦災に遭い京都に転住、以来四十七年三月神戸大学定年退官まで阪急電車での通勤生活であった。その後も神戸との縁は切れず何かと訪れて、現在もなお月に三回神戸での万葉講座に出講している。

ところで近年の神戸の発展ぶりは目を見張るものがある。八百年前の清盛の叡智を酌ん

ぶりは目を見張るものがある。



隨想三題

回想入江小学校

野中 春水
〈神戸大学名誉教授〉



だ港島や六甲島の形成はまさに昭和の新開地である。トンネルをくぐれば雪国ならぬ名湯が湯気をあげている便利さだし、更に東西に貫く地下鉄は神戸発展の画期的なもの。かつて神戸の中心は、文化は東遷した。兵庫から元町へ、元町から三宮へと流れていった。ここに、この地下鉄によって神戸は西北へ広く豊かに展開する。爽快なことである。

けれど反面、古きものが失われゆくは自然の理であろう。その一つ、私の母校入江小学校がなくなるという。感慨新たなるものがある。

私は兵庫生まれで旧姓は尾上、神明町に住んでいた。数軒東にはお城の建物のような岸本銀行、その角を左へ回れ

ば本町筋、旧西国街道である。酒饅頭の駒屋や宮下度量衡店の前を通って通学したのである。大正期、紳の着物に袴をはいていた。入江小学校の思合団は太鼓であった。運動場で、はしゃぎ回っていたのが太鼓が鳴れば「太鼓！太鼓！」とはやじたて、教室にかけ込

むのである。学校前は電車道、③の電車（兵庫駅—楠公前間）。④とは線路系統を示す。現在は算用数字で表示が、昔は「いろは」を使っていた)が音をたてていた。近くの七宮神社の傍の石を昔船をつないだ石だと教えられた記憶がある。母校の名称の所記以「佐比の入江」の風情が偲ばれる。卒業式は大正十年三月十八日、卒業証書を今も持っているが、その裏面に「大正八年二月二十五日第二期種痘完了・入江小学校」とのゴム印が押してある。時代性がうかがえる。そしてその三月二十日から三日間、神戸開港五十年祝賀祭に当時人口七十万の全市は沸きたつたのである。奇しくも今年は開港百二十年、かくて今後も、その節目の年毎に開港記念の祝賀は続くであろう一時には古きの哀惜をからませながら。鎌倉期当地に来た飛鳥井雅有は湊川夕汐満みて風寒み古き都に千鳥鳴くなり（夫木和歌抄）と神戸を都と詠じたが、福原遷都はまさに都の地、わが故里神戸、そのかぎりなき繁榮を祈念予祝するものであ

花の夢・植物の夢

野口武彦 〈神戸大学文学部教授〉 カット・田中一好

江戸時代も後半、文化十二年（一八一五）に起きたと伝えられる出来事である。江戸の湯島に幕府御普請方の下請けをしている岡田弥八郎という男が住んでいて、一人娘の名をせいといった。生まれつき利発で、和歌の道を好み、ちゃんとした師匠にもついて、この話の前年十四歳のときに、こんな歌をよんでも師匠からもほめられた。へいかならん色に咲くかと明くる夜をまつ（待つ・松）のとばその朝顔の花。けっこうできのよい一首である。

ところが、不幸にして天はこの娘に天寿を与えた、ふとした風邪の心地にわざらつて、いるうちに、ついにはかななくなってしまった。両親の嘆きは言いようもなかつた。さてその翌年の秋、母親は亡き娘の手文庫の中から朝顔の種子を見つけ出した。品種ごとに分けてあるその包みの一つ一つには、絞り、瑠璃などとなつかしい筆蹟で書きつけてあって、それがなおさらいじらしかつた。鉢植えにして朝夕水をそいでいるうちに、葉も出たし蔓も伸びたのだが、いっこうに蕾の出る様子がない。秋でも花が咲かないわけはない、と一念こめて丹精した母の思いが通じたのか——

ると、母は娘が事のみ忘れかね、朝顔を思ひながら、うつら／＼と眠りたるが、娘の声にて、おかさま花が咲きましたといふに驚きさめぬ。あまりいぶかしく思ひければ、朝顔のそばへゆきみれば、一輪咲き出でたり。いよ／＼怪しと思ひて、夫弥八郎が帰るを待ちかねて、この由をも語り、花をも見せし由。この花、昼夜に咲きて翌朝までしばまずしてありとなん。

美しい話である。「夢の朝顔」と題されたこの一篇は、じつをいうと、「南総里見八犬伝」の作者として名高い滝沢馬琴が編集した巷説集「兎園小説」の中におさめられている。「小説」といつても、今日の意味でのフィクションではない。巷の噂、市井の雑談である。つまり、馬琴自身も、この話を馬琴に伝えた人々も、これはほんとうにあつた出来事と信じて疑わなかつたのである。

この時代、江戸の町では園芸趣味はただ盛りであつたばかりでなく、栽培技術も高度なレベルに達していた。特に朝顔は人気的だった。人々は競い合って、超大輪とか狂い咲きとかの珍種を交配したのである。黄色い朝顔が作られたという記録まである。ちなみにいうと、この品種は黒いチーリップ・青い薔薇とならんで、今日の園芸界ある日、父弥八郎は東叡山の御普請場へ出でた

でも交配不可能とされている。もしできたとしても、それには遺伝能力がなく一代かぎりで消えてしまったのだろう。人々はそれほどまでに新種を作り出す夢を追っていたのである。だとするならば、今の「夢の朝顔」の話のように、いつしか現実をつきぬけていたとしても別に不思議はないではないか。これは江戸人の集合的な夢想の中に、ばかりと浮かび出た一輪であった。

ことのついでに、黄色い朝顔をめぐつてもう少し書いておこう。時代ははるかにさかのぼるが、元禄四年（一六九一）に井原西鶴が『石車』とい

う俳書を世に問うている。西鶴はもちろん「好色一代男」その他の浮世草子作者として有名だが、もともとは談林派の俳人として出発した人物であ

る。ともかくこの『石車』の内容はすこぶる攻撃的であって、京都の匿名の俳諧師が刊行した『物見車』という俳書に完膚なきまでに反論を加えたものである。そもそもこの『物見車』の編集意図が悪意に満ちていた。その一例が、いま問題の黄色い朝顔。匿名の編者は、発句の上の五文字なしに「〇〇〇〇〇槿に黄あり白き有」と発題し、京都の宗匠たちに上を置かせた。「槿」字は、「むくげ・木槿」とも「あさがほ・牽牛花」とよめる。木槿にしか黄色い花は咲かないと思い込んでのトリックである。

末の世や槿に黄あり白き有

僧いかにあさがほに黄有白き有

似船

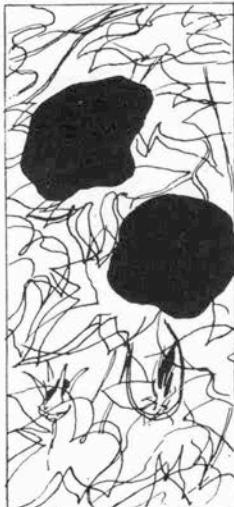
時世かな槿に黄あり白き有

常牧

蝕の夜のあさがほに黄有白き有

我黒

晚山



ざつとこんな具合に、木槿と牽牛花はまちまちであり、できばえも苦しまぎれである。しかし西鶴は、「木槿には黄なるものなし」と一喝する。その根拠は『本草綱目』という博物学書である。そして朝顔についても、「子ニ黑白有り。花に紅碧・白有り。黄ナルモノ無キナリ」とその本文を引用している。西鶴自身が黄色い朝顔を見たことがなかつたことは、これで明白だろう。事実この時期、まだそんな品種は出現していなかつたのだから。その百数十年後のまぼろしの花、まさしくこれは、べ末の世やあさがほに黄あり白き有、であった。花のお江戸をあげての朝顔マニア、薄命の一輪一輪に托した夢の名残りは、いまもこの季節、東京浅草の一風物たる朝顔市に伝えられている。

十字架委員長

河上民雄（衆議院議員） カツト・石阪春生

「十字架委員長」（いのちのことば社刊）が出版されて、改めて父のことを懷しんで頂き、また父を全く知らない人々にとつては、このような人物がいたことをはじめて知つて、父の子として喜びと感謝が心のなかに静かにひろがつている。

私の父、河上丈太郎は、晩年、自分の父親、私からいえば祖父になる河上新太郎について、非常に熱心に語つた。新太郎は全く無名な東京下町の篤実なキリスト教信仰を堅持した平信徒で、大工の棟梁、材木商を業としたが、わが国最初の非行少年のために社会事業、「東京家庭学校」の創立者、略岡幸助の生涯を描いた「一路白頭に到る」（岩波新書、高瀬善夫著）にその協力者として名前が出てくる人物でもあった。私の父は、この新太郎に決定的な影響をうけた。

このたびの「十字架委員長」は、私の父自身が口述した「私の履歴書」（日本経済新聞社刊）や、戦前のキリスト教の教会史、あるいは私が父からの伝承に基づいて祖父についてしるした随想などを活かして、まず河上新太郎のことから書き起こしている。

不思議なことに、私の父に自分の母についてはあまり書き残していない。私は祖父については、

ほとんど記憶がないが、祖母かねとはその晩年、一緒に暮らしているので、よく知つてゐるが、今では知らない筈の祖父新太郎の方がイメージが強烈である。

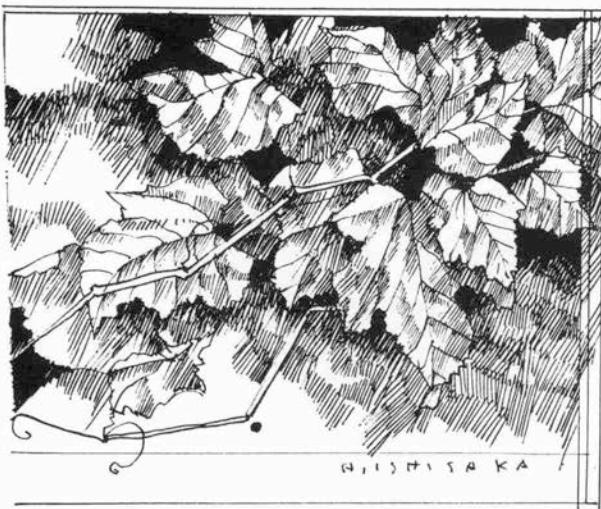
今回の出版はキリスト教関係の出版社の刊行で、神戸ルーテル神学校の校長鍋谷堯爾先生が代表者となられた「十字架委員長刊行会」のご尽力に負うてゐる。もともとは、同じ「いのちのことば社」が刊行する信徒向けの月刊雑誌「百万人の福音」に十五カ月にわたって連載された読物を、まとめて一冊としたのである。出版にさいしての条件として、私が監修者として名を出すことになった。したがつて、この本は「百万人の福音」誌の功に帰せらるべきもので（執筆者は宮本義治氏）、この本に私の「監修」と冠することは、いささか気のひける話で、何度もお断わりした。

ただ、なんといつても私の父のことに関する出版であるので、ゲラの段階で私と家の二人で忙しい合間を縫つて校正に当り、気のついた箇所については意見も申し上げた。

私は戦後、父が政界に復帰し右派社会党委員長に迎えられた昭和二十七年前後から、没する昭和四十年十二月三日（一九五二—一九六五年）まで約十四年間、父の演説草稿、随想などほとんどの

原稿の影の執筆者の役割をひきうけ、来る日も来る日も息をつく間もない思いで、暮らした。この本の「はしがき」でその思い出に少しふれており、また父の晩年のニックネームであり、本書のタイトルにもなった「十字架委員長」の由来についても書いた。

この本は、その題名の通り、クリスチャン政治家としての父について生涯を描いており、社会党という当時は二大政党時代であったが、その一方の政党の指導者として父が直面した苦悩と決断については必ずしも十分に紹介されていないようだ。その間のいきさつについて鮮やかに記憶している私共からすると、いささか残念な気がする



が、私自身、すでに二十数年へたとはいえ、関係者が存命のうちに公表すべきか否か、迷いがある。私が父との十四年間で一番苦しんだのは、父が昭和四十年のお正月に「くも膜下出血」で倒れて社会党委員長としての父の出所進退をどうするかであった。医師団より父の病状と見通しを告げられた日、父の回復のために最善をつくして頂くよう病院側に要請すると共に、他方、深夜、九段宿舎に成田知巳書記長(当時)をひそかに訪ね、医師団の報告をそのまま伝えた。それから数カ月、父の病状が悪化するに伴い、折から六月の参議院議員選挙が近づいたこともあって、父の進退問題が関係者の胸中に去来するようになつた。いま辞められては党が混乱するだけだという政治判断や、

どうせ死ぬなら現職のまま死なしたいという人情論などが強く、私が主張する父の辞任に賛成して頂ける空気は全くなかつた。その頃の父はすでに言語障害におちいっていたので、私としては父が元気であれば必ずこうしたであろうという道をえらんだ。私が辞表を書き、夕刻、成田書記長に提出し、翌朝のあさ一番のNHKのニュースから全國に向けて父の辞表が家族から提出されたことが報道された。このことは成田書記長を困惑させ、私も各方面から叱りをうけたが、父は私のしたことによしとしてくれた、と今も信じている。

もし、あそこで進退の時機を失していたら、父の伝記はどうのように書けただろうか。今回の出版で私はふとそんなことを改めて思った。



▲筆者紹介▽ 大正十四年、兵庫県生まれ。河上丈太郎の長男。旧制静岡高等学校、東京大学西洋史学科卒。東海大学教授。現在衆議院議員(社会党)。著書・翻訳書多数。社会党国際局長など歴任。

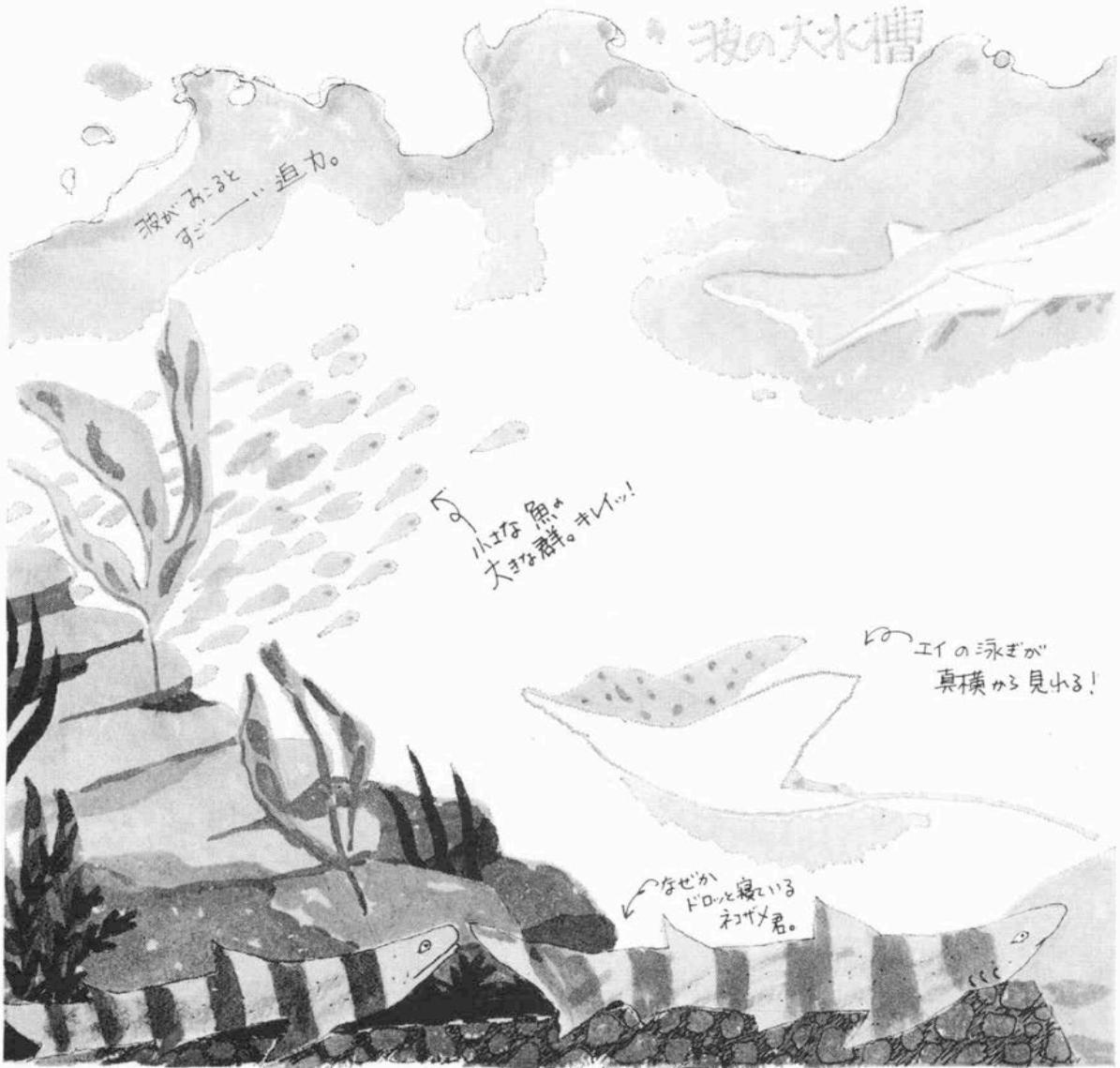
赤松玉女

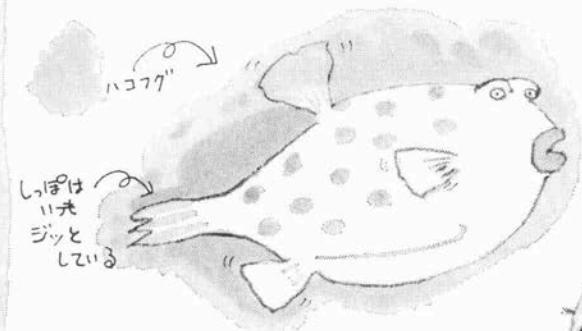
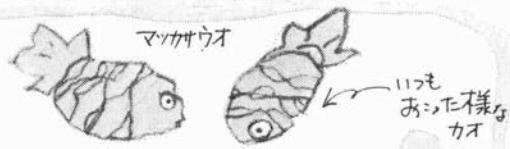
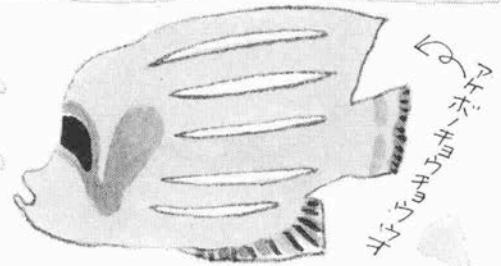


赤松玉女の
スクシナアヅク
海滨水族園

サメが頭の上を
泳いでいい……
サメのおなか、2
ニン子に白かたのネ。







水族園のひょうごん族達



この他にも、魚ライヴ館のピラニア・ネバ
電気ウナギ、森の水槽のピラルク、など。
話題は、魚たるや生きものがいいのはいい。
でも、食卓でおなじみのイワシやアジが
群れてたなくて泳いでいる姿などには
感動的な美しさなどありました。文と絵
赤松圭世